

## 6 金沢くらしの博物館 (旧石川県第二中学校本館)

重要文化財

「三尖塔校舎」の愛称で親しまれる近代学校建築



**旧石川県第二中学校本館**  
所在地：金沢市飛梅町3-31(金沢くらしの博物館)  
竣工年：明治32(1899)年  
設計者：山口孝吉(石川県技師)

旧石川県第二中学校の校舎として建てられた洋風木造建築で、現在は、金沢の風物詩や昔ながらの生活用品、伝統産業の製作用具などを紹介する「金沢くらしの博物館」として活用されています。



**玄関の車寄せ**  
当時の中学校校舎の設計指針を踏まえつつも、屋根の小窓や車寄せに施された透彫等に独創性が見られます。

全体的に洋風の意匠が施された外観で、両翼部の内側には尖塔が設けられ、三角形を強調した中央の屋根と合わせ、校舎の愛称であった「三尖塔校舎」の由来とされています。建物内部も竣工当初の形式を良く残しており、当時の学校建築の様子を知ることができる貴重な建物です。

〈金沢くらしの博物館〉  
●開館時間：9:30～17:00(入場は16:30まで) ●休館日：年末年始、展示替え期間  
●料 金：一般310円、65歳以上210円、高校生以下無料

## 7 金沢城公園 (旧陸軍歩兵第六旅団司令部庁舎)

金沢城内に現存する全国的にも貴重な旧陸軍施設



**旧陸軍歩兵第六旅団司令部庁舎**  
所在地：金沢市丸の内1-1(金沢城公園内)  
竣工年：明治31(1898)年

※旅団：日本陸軍の戦略単位で、師団の下位、連隊の上位の組織。金沢には、歩兵第七・第三十五連隊を統括する第六旅団が置かれた。

旧陸軍の歩兵第六旅団司令部の木造庁舎として建てられた建物です。中央に玄関を配した平屋建てで左右対称の形式になっています。内部は、旅団長室のほか、事務室や会議室からなる大小9つの部屋に分かれており、かつては、便所や湯沸かし室等の別棟と渡り廊下でつながっていました。

基礎は煉瓦積みで、腰から軒までの外壁はモルタル塗りになっており、上下開閉の窓がついています。金沢城内に金沢大学が置かれていた当時は、教育施設として利用されていましたが、現在は公園の管理施設として活用されています。



## 8 金沢城公園 (旧陸軍弾薬庫隧道)



**旧陸軍弾薬庫隧道**  
所在地：金沢市丸の内1-1(金沢城公園内)  
竣工年：不明

金沢城内に残る唯一の煉瓦造構造物

戊辰戦跡の北面の石垣を利用した煉瓦造の弾薬庫隧道です。煉瓦の長手だけの段、小口だけの段を交互に積みイギリス積みで造られています。この通路の本丸寄りに、弾薬庫が置かれていました。火薬などを貯蔵する弾薬庫は、爆発事故等の懸念から、堅固な煉瓦壁が求められ、市街地に影響の少ない旧城内敷地に設置されたと考えられます。

〈金沢城公園〉  
●開園時間：7:00～18:00(3/1～10/15) 8:00～17:00(10/16～2月末)  
●休 園 日：年中無休  
●料 金：無料(②旧陸軍歩兵第六旅団司令部庁舎・③旧陸軍弾薬庫隧道は内部見学不可)

金沢

# レトロ建築めぐり

～近代建築ガイドマップ～

金沢の明治・大正にふれる散策ルート



# 1 国立工芸館 (旧陸軍第九師団司令部庁舎、旧陸軍金沢偕行社)

明治期に建てられた全国でも数少ない現存する旧陸軍施設



旧陸軍第九師団司令部庁舎  
所在地：金沢市出羽町3-2 (国立工芸館)  
竣工年：明治31(1898)年

旧陸軍第九師団の司令部庁舎として、金沢城二ノ丸跡に建築された建物です。戦後は移築され、県の庁舎などに使用されてきましたが、旧陸軍金沢偕行社と合わせて現在地に移築され、日本で唯一の国立で工芸を専門とする美術館である「国立工芸館」として活用されています。



ケヤキ造りの階段

左右対称の木造2階建てで簡素な庁舎らしい外観が特徴です。内部は、重厚なケヤキ造りの階段や天井の漆喰レリーフなど明治期の洋風建築の意匠が復元・保存され、当時の雰囲気が感じられます。



旧陸軍金沢偕行社  
所在地：金沢市出羽町3-2 (国立工芸館)  
竣工年：明治42(1909)年

陸軍将校の集会所として、現在の県立能楽堂横に建築された建物です。戦後は県の庁舎などに使用されてきましたが、旧陸軍第九師団司令部庁舎とともに現在地に移築され、「国立工芸館」として活用されています。



2階多目的室の天井

隣接する旧陸軍第九師団司令部庁舎とは対照的に、バロック風の技巧的な装飾を用いた華やかな外観が特徴です。内部の見どころは、2階多目的室の格子状の天井とシャンデリアで、明治期の雰囲気が再現されています。

〈国立工芸館〉 ●開館時間：9:30～17:30(入場は17:00まで) ●休館日：毎週月曜(祝日の場合は開館し、翌日休館)、年末年始、展示替え期間  
●料 金：一般500円、大学生300円、高校生以下および18歳未満無料(石川移転開館記念展I～III)

# 2 石川県立美術館広坂別館 (旧陸軍第九師団長官舎)

大きな三角破風が特徴的な旧陸軍師団長の官舎



旧陸軍第九師団長官舎  
所在地：金沢市出羽町1-1 (石川県立美術館広坂別館)  
竣工年：大正11(1922)年

師団長の官舎として建築された建物です。戦後は、米軍将校の官舎、金沢家庭裁判所、石川県児童会館等、様々な施設として使われてきましたが、平成20年以降は「石川県立美術館広坂別館」としてギャラリーや茶会等、県民の文化活動の場として使用されており、自由に見学することができます。また、隣接している石川県文化財保存修復工房のガイダンス施設としても活用されています。



多目的室

急勾配の瓦葺屋根と正面に張り出した大きな三角破風が印象的で、内部は漆喰の壁や格天井、マンテルピース(暖炉飾り)などに建築当時の意匠が残されています。

〈石川県立美術館広坂別館〉 ●開館時間：9:30～17:00 ●休館日：年末年始 ●料金：無料

# 3 いしかわ赤レンガミュージアム (旧金澤陸軍兵器支廠兵器庫)

明治から大正にかけて建てられた3つの赤煉瓦倉庫

重要文化財



旧金澤陸軍兵器支廠兵器庫  
所在地：金沢市出羽町3-1 (いしかわ赤レンガミュージアム)  
竣工年：明治42年[第3棟]、大正2年[第2棟]、大正3年[第1棟(道路側)]

赤煉瓦3棟の建物は、旧陸軍の兵器庫として建てられました。現在は、第1棟と第2棟を石川県立歴史博物館、第3棟を武家文化を発信する加賀本多博物館として活用しており、「いしかわ赤レンガミュージアム」の愛称で呼ばれています。



ほっとサロン

いずれも煉瓦造2階建てで、左右対称を基本とした端正な意匠であり、長さは85～90mに及びます。第1棟と第2棟の間にあるほっとサロンは、美しい赤煉瓦の壁を眺めながら休憩ができる空間となっています。

〈県立歴史博物館〉 ●開館時間：9:00～17:00(入場は16:30まで) ●休館日：年末年始、展示替え期間 ●料金：一般300円、大学生240円、高校生以下無料  
〈加賀本多博物館〉 ●開館時間：9:00～17:00(入場は16:30まで) ●休館日：毎週木曜(12月～2月)、年末年始、展示替え期間 ●料金：一般400円、大学生300円、高校生以下無料

# 4 石川四高記念文化交流館 (旧第四高等中学校本館)

数々の人材を輩出した「学都」金沢を象徴する赤レンガ校舎

重要文化財



旧第四高等中学校本館  
所在地：金沢市広坂2-2-5 (石川四高記念文化交流館)  
竣工年：明治24(1891)年  
設計者：山口半六(文部省会計局所属の建築家)

旧第四高等中学校本館として建てられたこの建物は、閉校後、金沢大学や石川県立郷土資料館(現：石川県立歴史博物館)などとして使用されてきましたが、現在は、四高の歴史と伝統を紹介する石川四高記念館と、石川県ゆかりの文学者を紹介する石川近代文学館で構成されています。



復元教室(2階多目的利用室)

建築当初の外観や間取り、構造が今なお残されている貴重な建物で、当時の雰囲気を感ずることが出来ます。



明治期の雰囲気を残す廊下

〈石川四高記念文化交流館〉 ●開館時間：9:00～21:00(展示室・近代文学館は17:00まで) ●休館日：年末年始  
●料 金：四高記念館：無料/近代文学館：一般370円、大学生290円、高校生以下無料

# 5 石川県政記念しいのき迎賓館 (旧石川県庁舎本館)

現存する県庁舎の中で、最も古い鉄筋コンクリート建造物



旧石川県庁舎本館  
所在地：金沢市広坂2-1-1 (石川県政記念しいのき迎賓館)  
竣工年：大正13(1924)年  
設計者：矢橋賢吉(大蔵省所属の建築家)

周辺の総合案内やレストラン、会議室などを備えた「しいのき迎賓館」として活用されている旧石川県庁舎は、本県初の本格的な鉄筋コンクリート造の建物です。当時最先端だったスクラッチタイルが使用された外壁と、幾何学的装飾を要所に配した端正で落ち着いた意匠が魅力です。



中央階段

内部は、建築当時と変わらない大理石張りの中央階段など旧石川県庁舎としての価値を残しており、増築された金沢城側のガラス張りの部分は、金沢城の石垣と樹木が一望できる県民の憩いの場となっています。

〈石川県政記念しいのき迎賓館〉 ●開館時間：9:00～22:00 ●休館日：年末年始 ●料金：無料